



たいまつを受け取る柿原地区の子どもたち

たいまつたいまつの炎に五穀豊穰ごこくほうじょうの願いを込めて 町内各地で夏の伝統行事「虫送り」

五十崎地域の大久喜地区や上宿間地区などで継承されている「虫送り」が8月21日、小田川や柿原川の周辺で行われました。この行事では火を付けたたいまつを持って虫を焼き、地域の五穀豊穰を祈ります。柿原地区では約50人が集まり、鐘や太鼓を鳴らしながら田んぼのあぜ道などを練り歩きました。一列に並んでゆめくたいまつたいまつの火が、幻想的な情景を浮かべていました。



かわいいリボンのキーホルダーが完成

歴史ある高橋邸たかはしでおしゃれな雑貨と 夏休みの思い出をつくったよ——

物作りと買い物を楽しむ「NIKO 日和 works&mart」が8月21日、文化交流ヴィラ高橋邸で開かれました。焼き菓子などの販売のほか、地元で活動する作家たちのワークショップがあり、親子連れや小学生が手ほどきを受けながらビーズの耳飾りや、消しゴムはんこを使ったオリジナルバック作りに挑戦していました。参加者は「上手にできた」「また挑戦したい」と喜んでいました。



上_今回も子どもたちに大人気だった小型バックホウのボールすくい 下_チェーンソーの振動に驚きながら丸太切りに挑戦

遊びながら森や林業を学ぼう 「ワンツーツリーフォレスト」

「ワンツーツリーフォレスト」(同実行委員会主催、武田惇奨代表)が8月21日、ソルファ・オダスキーゲレンデで開かれました。2年ぶり5回目となるこのイベントは「林業の日常」をテーマに、地域の企業が中心となって林業体験をエンターテインメントとして提供しています。

広々とした会場で体験できるのは、林業機械での丸太積みやボールすくい、のこぎりやチェーンソーでの丸太切り、ドローン操作、*E-BIKE試乗、木工体験など——。親子連れなど約400人が来場し、思い思いに山の仕事や遊びの魅力を満喫していました。

武田さんは「林業の魅力や、地元の取り組みをイベントを通じて紹介したい。今回も新たな出店者が加わり、内子町の引き出しの多さを実感した。こんな時勢だからこそ、この町の広大な山々をレジャーの受け皿として、皆さんを迎え入れたい」とにっこり。伊予市から来た坪内翔多朗くん(小学4年生)は「丸太積み体験が楽しかった。難しかったけれど4つも積めた。物作りが好きなので、将来は大工になりたい」と声を弾ませました。

笹の葉さらさら、ランタンきらきら 子どもたちの願いたくさん「内子笹まつり」

たくさんの笹飾りが通りを彩る「内子笹まつり」(同実行委員会主催、大西啓介委員長)が8月6・7の両日、内子本町商店街で開かれました。この祭りは昭和32年(1957年)、商店街の繁栄を願うとともに、お客さんへの感謝の気持ちを表すために始まったといわれています。例年はくす玉や吹き流しなどを装飾した大きな笹飾りが並びますが、3年ぶりの開催となった今年は、感染症対策をしながら規模を縮小して開催。大きな飾りを減らし、各店舗の軒先に一般的な笹飾り約50本を飾りました。

初の試みとして取り組んだのは約700個のランタンと、笹飾りに町内の園児から高校生までが書いた短冊をつるすこと——。「家族が元気でいられますように」「ホームランが打てますように」「思いが伝わりますように」など、たくさんの願い事が風にさらさらと揺れ、道行く人々の目を楽しませていました。

大西さんは「いつもとは違う笹まつりだったけれど、たくさんの人でにぎわっていた。子どもたちの喜ぶ姿を見られたのが一番よかった」と目を細めていました。



上_笹飾りとランタンに彩られた本部席のある児童館前。風船のパフォーマンスや、ギター演奏なども行われた 下_実行委員会が設置した「お願い短冊」に、たくさんの人が願いをかけていた

「ホントに木からできるんだ」 夏休みに親子で体験する紙作り

「木から紙を作るワークショップ」(内子山村クラフト研究所主催)が8月13・14の両日、田渡地区にある同研究所で開かれました。参加者は和紙の原料となる楮こうぞの収穫から、皮をはいて紙を漉くまでの一連の作業を体験。最後に草花を飾り付けて、世界で1枚だけのハガキに仕上げました。親子で参加した松田優衣さん(12)＝松山市＝は「すてきな夏の思い出になった」と笑顔いっぱいでした。



漉いた紙に花びらをちりばめて自分だけのハガキに

オヒカリのやわらかな炎が地域を照らす 山肌には3年ぶりに「山ノ神」の火文字

200年目を迎えた寺村地区のオヒカリの点灯が8月17日、同地区内で行われました。「山の神火祭り」は令和2年から中止が続いていますが、百八灯は毎年、灯されています。今年は「山ノ神」の火文字が描かれ、帰省客などを喜ばせていました。当番組・中通り区2・3班代表の久保敬輔さんは「大変な作業だけど、たくさんの方の協力で火文字をできた。感無量」と顔をほころばせました。



作業が無事終わり記念撮影をする当番組の皆さん